

2021年
No. 55
春号

Nakakita Smile通信

～マナーの処方せん～



中北マナーキャラクター
中北みどりちゃん

日本のしきたり

みなさんは、「しきたり」と聞くとどんなイメージが浮かびますか？大切なこと、堅苦しいこと、面倒だと感じることもあるかもしれません。辞書には『昔から、続けていたこと 習わし』そして『人から神様への心配り』という素敵な意味も。今回は「花」にまつわる行事や、しきたりについてお伝えします。

春のお花見

春の行事といえばお花見、桜が有名ですが、奈良時代には『梅』や『萩』を指し、平安時代から『桜』を楽しむようになったといわれています。当時は貴族の行事でしたが、鎌倉・奈良時代に入ると武士階級に広がりました。「吉野の花見」は、徳川家康や伊達政宗などの名だたる武将や茶人など参加者が総勢 5000 人にも及ぶ、大規模なお花見だったといわれています。

また、花より団子と言われる「三色団子」は、この頃振る舞われたともいわれています。



庶民が楽しむことができるようになったのは、江戸時代になってから。ソメイヨシノが品種改良によって作られたのもこの頃だそうです。



母の日

日本の母の日は5月の第二日曜日ですが、これはアメリカの習わしに沿ったものだそうです。起源は、1905年、戦場の衛生改善活動を行ったアン・ジャービスの娘アンナが、母が好きだった白いカーネーションを祭壇に飾ったことに感動した人々から、始まったといわれています。カーネーションの色も白から赤に変わり、日本では1949年頃から始まり、定着するようになりました。母の日は世界中に広まっていますが、国により日にちは様々だそうです。



父の日

一方、日本の父の日は6月の第三日曜日。こちらも、南北戦争時代のアメリカが起源。戦後、男手ひとつで6人の子供を育ててくれた父への感謝を、娘ソノラが白いバラに込めて墓前に供えたことから始まったといわれています。日本では1980年代頃から広まり、現在では、愛と信頼と尊敬を表す色として「黄色」のバラや、贈り物に「黄色」のリボンをつけることが多いそうです。



まだまだコロナ禍の影響で、皆で揃って和気藹々とはならないですが、季節のおとずれと共に、花は毎年きれいに咲いてくれます。ご近所でのお花見散歩や、花の贈り物はいかがですか？

マナーインストラクター部HPです。ぜひご覧ください。 **次回は7月発行予定です**
<https://www.nakakita-manner.com/> **お楽しみに♪**

